

弾圧・冤罪・裏金作り

——警察の犯罪・メディアの現在

- ◆ 11月20日（土）午後1時～5時
 - ◆ 明治大学研究棟2階会議室（お茶の水）
- 主催 人権と報道・連絡会

2月。自衛隊官舎のポストに「イラク派兵反対」を訴えるビラを入れた「立川自衛隊監視テント村」の3人が「住居侵入罪」で逮捕・起訴され、75日間も勾留された。

5月。プリペイドカード会社を営むバングラデシュ人男性が公安警察に不当逮捕され、43日間も勾留されたうえ、「アルカイダ関係者」として大々的に報道された。

6～7月、母親を殺されて悲嘆に沈む長野県の女性が、警察に犯人扱いされて何度も取り調べを受け、ポリグラフにかけられたりして「自白」を強要された。

その一方、北海道、高知、福岡、愛媛などで警察の組織的な裏金作り＝詐欺・横領・公文書偽造が次々と問題化した。だが、警察幹部はシラを切り、うその上塗りを重ねる。

「戦争ができる国」作りの尖兵として政治弾圧を重ね、冤罪・人権侵害を繰り返す警察。それを監視し、「警察の犯罪」を市民に伝えるべきメディアは、今どうなっているのか。——警察やメディアに人権を侵害された被害者の体験、ジャーナリストの報告をもとに、「警察の犯罪・メディアの現在」について、いっしょに考えてみませんか。

【報告者・パネリスト】

- ◆ 「立川・反戦ビラ弾圧」事件 大西章寛さん
 - ◆ 「アルカイダ冤罪」事件 イスラム・モハメド・ヒムさん
 - ◆ 「長野県警・犯人扱い」事件被害者
 - ◆ 北海道新聞「道警裏金作り」報道 高田昌幸さん
- （司会） 人権と報道・連絡会 山際永三事務局長

連絡先 03・3328・7609（山際）